

都道府県名：和歌山県 団体名：有田川町

地域

有田川町は、和歌山県のほぼ中央に位置し、東西に細長い形状をしています。町の中央部を高野山に源を発する有田川が西に蛇行しながら流れており、豊かな自然と産業を生み出しています。

代表的な特産物は、冬のこたつにはおなじみの「有田みかん」や近年ヨーロッパのパティシエからも注目を集める和のスパイス「ぶどう山椒」などがあります。また、国宝・鳥獣人物戯画で知られる高山寺(京都市)の開祖・明恵(みょうえ)上人の出身地でもあります。

経緯

有田川の中流にある県営二川ダムでは毎秒0.7m³の河川維持放流が常時行われており、このエネルギーを活用する町営小水力発電所を建設し、環境にも町財政にもやさしいまちづくりに取り組む「有田川エコプロジェクト」が平成21年にスタートしました。

県営多目的ダムの維持放流水を町が活用するという発電所は全国的にも例がなく、手探りでこの事業でしたが、平成28年に完成して順調に稼働しています。

功績内容

県営多目的ダムの未利用だった維持放流水を町が活用する全国初のスキームは、「有田川モデル」として全国から多くの視察を受け入れ、水力発電を検討する地域の先行例となっています。

小水力発電による売電収益は基金に積立て、公共施設への再生可能エネルギー設備設置等の温暖化防止事業やごみ減量推進事業に活用するなど、水資源を有効利用しながら環境問題にも取り組み、循環型のまちづくりを推進しています。

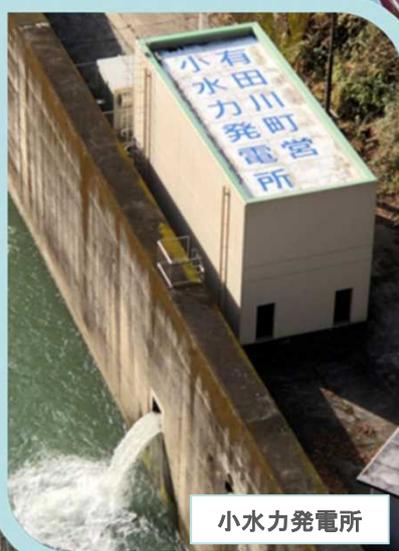
また、明治時代から昭和の大水害まで有田川流域に多くあった水力発電所の歴史をまとめ、小水力発電所の見学に来た子どもたちの環境教育・ふるさと教育の教材として活用しています。

発電所には県内外から多くの見学者が訪れてくれるようになりました。発電で得た収益を環境教育や再生可能エネルギーに再投資し「環境にも町財政にもやさしい発電所」となっています。

小学生の見学風景



エコ体験教室



小水力発電所



廃校の小学校へ太陽光パネルの設置 46kw



ソーラーパネルを設置した「ごみステーション」
普段は外灯に使用し、災害時には非常用電源としても活用できます